

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200167	
法人名	社会福祉法人小羊会	
事業所名	グループホーム豊四季台	
所在地	千葉県柏市豊四季台三丁目1番4号	
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム	
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8	
訪問調査日	平成26年11月30日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々のニーズを大切に、今までの生活が継続する為に、有する能力を十分に発揮できる様支援し、日々生活の中で、散歩や外出、外食の機会を多く設け「ここに来て良かった」と笑顔で過ごせる様、努めています。特養、デイサービス、居宅の併設により切り替えが円滑に行えるように連携体制が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム豊四季台」は、団地の中にあり、通所介護・特別養護老人ホームが併設されている。併設施設とは、餅つき大会・出張デパート・居酒屋等の合同イベントを実施しており、交流を図っている。また、入居者・家族の意向及び身体状況の変化に応じて、特別養護老人ホームに相談し、適切な連携を図っている。地域行事やサロンへの参加・施設行事への家族招待・ボランティアの受け入れ・地域の商店の利用等、様々な形で地域・家族との交流を図っており、入居者の生活の活性化に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念をGH内に掲示し共有。入居者様が望まれる生活ができる様努めています。	「自分らしく穏やかに笑顔で暮らせるように」と言う施設理念を掲げており、事業所内に掲示している。4月に行われる新人研修にて、法人理念・施設方針等の説明を行っており、職員への周知を図っている。	現在、人材が安定しているが、現任職員に対して、研修や会議での検討を通じて理念に立ち返る機会を設ける事で、理念に基づくサービスの実施及び施設運営に取り組んで頂く事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の夏祭、ニコニコサロンでのお茶飲みや商店街への散歩や買い物。また、定期的に訪問して下さるボランティア等常に交流に努めている。	施設は団地の一角にあり、日頃から近隣住民とは挨拶を交わす関係を築いている。また、地域行事や地域のサロンへの参加を通じて交流を図ると共に、施設行事にボランティア・家族を招待し、外部との交流を促進している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、毎日の散歩で、地域の方々との交流等を通し、発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生員、地域包括の皆様から意見を頂サービス向上に生かしている。	運営推進会議は、年4回開催しており、地域包括支援センター職員・民生委員・地域住民・家族等が出席している。会議では、施設の活動報告及び意見・情報交換を行い、施設理解の促進・サービスの質の向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、報告相談を行い協力関係を築いている。	日頃から市に対して、業務における相談や報告を行い、連携を図っている。また、柏市グループホーム連絡会の会議に参加しており、市との意見・情報交換を行う等、相互にサービスの質の向上に取り組む体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市に報告し玄関は、電子ロックになっているが居室は、吐き出し窓になっており束縛しないケアに努めている。	身体拘束排除における研修参加及び資料の作成を通じて、職員への理解を促進している。玄関に施錠はしているが、声掛け・見守り・付き添いを柔軟に対応し、自由な生活を支援していると同時に、市や家族には安全確保の旨を説明し、了承を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々見過ごされないよう職員の行動をチェックし、更衣時、アザや傷などの確認をし防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度の入居者様、一人おり、1年前に講習を行ったが、今後も定期的に行いたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の取り交わし時は、十分に時間をかけ説明を行い、理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、御意見を伺う目安箱を設置し意見要望をお聞きし運営に反映させている。	家族の訪問時・電話連絡時等を活用して、直接意見や要望等を確認している。挙げた意見・要望においては、会議・申し送り・記録等を活用して、周知・検討の上、適切な改善に努めている。また、家族に対し、生活の様子を記したお便りの送付・金銭報告・介護計画の説明を随時行っており、理解を得られる関係作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員の意見に耳を傾け、ユニット会議や連絡ノートで、共有し運営に反映させている。	定期的に会議を開催しており、職員からの意見・提案を確認する機会を設けていると共に、幹部会議も開催されており、現場の意見を法人幹部に伝える機会も確保されている。今年度は、現場からの意見が採用され、訪問医の導入をする等、状況に応じた改善がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績等、人事評価により正当な評価を行い、向上心をもって働けるよう環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡会主催の研修や日々、ケアの中で学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループ連絡会に所属し、ネットワーク作り、情報交換を行いサービスの質の向上に役立っている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談を基にサマリー作成、ニーズを明らかにしケアプラン作成。傾聴し、意向を汲み取り安心できる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱える不安要望に耳を傾けすぐにケアに反映するように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズの把握に努め必要に応じて社会資源の活用に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間を共有し、何事も共に行い互いに支え合い学び合う関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回のお手紙、随時電話や面会時日々の生活を報告。また親睦会等を通し共に支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、手紙、電話、かかりつけ医、理髪店等これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。	友人・知人・家族等の訪問を随時受け付けていると共に、希望に応じて手紙のやり取りを支援しており、馴染みの関係継続に配慮している。また、地域行事・地域のサロンへの参加等を通じて、新たな馴染みの関係の構築を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活、散歩、外出等を通しお互いが持っている力を発揮し、支え合うよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族の意向に添い相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でコミュニケーションを大切にしその方のニーズを把握し拜啓を家族から聞き取る等、本人主体になるよう努めている。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、医療機関・他サービス事業所からの情報提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。会議・連絡ノート・記録等を活用し、職員全員で常に新しい情報を共有できるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時のアセスメントやケアを受けていた事業所からの情報を共有し暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、排泄表、水分表、バイタルチェック表、申し送りにて現状を把握し日々変化する状況にも対応できるよう情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議、サービス担当者会議でニーズやケアの内容について検討、3か月毎または、状況変化時、モニタリング後随時ケアプランの見直し作成を行っている。	記録や会議での検討を踏まえて、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを図っている。また、家族を交えた話し合いや医師の意見等を参考にしており、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録で個人の様子がわかるよう記録を残し、職員間で情報を共有し今必要とする支援を提供出来る様、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々、発生するニーズに柔軟な対応が出来る様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事への参加、図書館、地域のニコニコサロンに出かけたりボランティアさんの訪問等、地域の方々との交流を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望により入居前のかかりつけ医を継続または、GH指定の訪問医との契約を支援している。	希望のかかりつけ医への受診が可能となり、必要に応じて、職員が通院の付き添いを支援している。必要時・定期に内科医・歯科医の往診を実施しており、適切な受診支援に努めている。また、希望時・必要時には、家族と受診に同行し、情報交換をしながら適切な支援に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックにて健康管理し、訪問医を利用している方は随時連絡相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医、ご家族と連携を密にとり早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	どのような終末期を望んでいるか本人ご家族の意向を大切に、担当医と連絡を密にとり、事業所で出来る事、出来ない事を十分に説明を行い、方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期における施設方針を家族に説明しており、合意を得ている。必要時には、家族と話し合いを重ね、意向を確認すると共に、他施設・医療機関への切り替えを希望された場合にも迅速かつ適切な連携を図りながらスムーズに切り替えができるよう協力体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命救急研修を受け実践を身に着けたが、今後も定期的に行いたいと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、特養と一緒に消防訓練を行っている。	スプリンクラー・火災報知器・直通の非常ベル等の消防設備を設置していると共に、併設施設と合同で年2回の避難訓練を実施している。施設内には、複数の避難経路を確保している他、併設施設と協力しながら迅速に避難できる体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	リビングには、ゆっくりと過ごせるソファがあり居室は個室でプライバシーが守れるように配慮されている。接遇、言葉かけ等個人尊重の対応にも心掛けている。	プライバシー保護接遇における指導を随時行っており、職員への理解を促進している。入居者の希望に応じて、同性介助を実施しており、プライバシーへの配慮に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを表出できるような声掛けや日常会話、意思決定がしやすい環境作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先せず、一人ひとりのペースを尊重し職員がその変化に対応して個々のペースに合わせて支援できる様努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容や、毎日の服選び、整容、化粧、衣類の乱れ汚れ等ないようフロアに姿見を配置し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付等準備を職員と一緒に、個々が嗜好する食品や外食、行事食、地方食等、様々な楽しみを提供している。	食事の献立及び調理等は、併設の特別養護老人ホームにて行っており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。定期的に、郷土料理・鍋等を提供すると共に、外食行事や行事食を企画・実施しており、食に対する楽しみを提供している。また、定期的に給食会議を実施しており、入居者の希望を反映させたメニューの工夫に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの良い食事を提供。硬いものや、食べにくい食品は刻み、個々に合わせて提供。水分表によりチェックし把握に努め必要量飲用出来る様支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け誘導を行っている。訪問歯科医の受け入れも実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により個々の排泄パターンを把握しそれぞれのタイミングで声掛け誘導を行い失禁を減らし自立に向けて支援を行っている。	排泄チェックリストを活用しながら個々の排泄パターンを把握すると共に、仕草・状況を確認しながら声掛けやトイレ誘導を行っており、適切な排泄支援に努めている。また、必要に応じて介護計画の中に排泄支援の項目を挙げ、チームで排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	

【千葉県】グループホーム豊四季台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩や体操により身体の活性化や水分摂取表により水分量を把握し排便を促すように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	早朝、夜間は安全上実施していないが日中は個人の希望や体調に応じ毎日入浴できるように柔軟に対応している。また、足浴、清拭等、清潔保持に努めている。	入居者の希望や体調を考慮しながら、適切な入浴機会を確保している。必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。浴室にはトイレが設置されており、プライバシーが確保されている他、浴槽には昇降リフトが設置されており、身体状況に合わせた入浴が可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動し夜間、安眠出来る様支援しているが、個々の体調や希望に添って休息の時間をもうけている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも閲覧できるように、薬ファイルの作成や、複数スタッフで確認し薬チェック表にて誤訳防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握しそれぞれの力に活かした楽しみを提供。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望により散歩、外食、遠出の外出等、戸外に出かける機会を多くもうけている他一時帰宅の支援も行っている。	日頃から希望・天候等に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出機会を設けていると共に、定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを提供している。また、地域行事・地域のサロンへの参加を通じて、外部の人との交流も図っており、入居者の生活の活性化に繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理しているが、買い物時、本人の能力に応じてご自身で支払う支援を行っている。		

【千葉県】グループホーム豊四季台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話を持っている方は自由に通話し事業所にも固定電話がありいつでも使用出来る様になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅からの写真や身の回り物を置き、共有空間には花、レクで創作した季節の飾り物、毎日の清掃を行い清潔にし、居心地よく、過ごせるように心がけている。	施設内は、バリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保され、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。また、共有スペースには、ソファ・テーブル等が設置されており、自由にくつろげる環境作りがなされている。リビングは、広く設けてあり、パーテーション等を活用しながら入居者の希望・状況に合わせた空間作りが可能となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファ、キッチン前のカウンター、廊下のイス、室外の喫煙スペース等思い思いに好きな場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、家族の写真、趣味の飾り物を通し、自宅に近い場所を再現し自分の部屋と認識し心地よく過ごせる様工夫している。	本人・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、布団を敷く事やテレビを設置する事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りもなされている。定期的に徹底清掃の日を設け、整理整頓及び衛生管理に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線、トイレ、洗面台に手すりを設置。居室には表札や目印にもの、トイレ、浴室に表示をし自立した生活が送れるよう工夫している。		